響いてこそ技術
シンフォニア テクノロジー

企業環境ステートメント
ECOing™
エコで行こう！ エコへ移行！

第89期 報告書

平成24年4月1日▶平成25年3月31日

Contents

P1 株主の皆様へ
P2 事業報告
P19 連結貸借対照表
P20 連結損益計算書
P21 連結株主資本等変動計算書
P22 (ご参考)連結キャッシュ・フロー計算書
P23 貸借対照表
P24 損益計算書
P25 株主資本等変動計算書
P26 連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書謄本
P27 会計監査人の監査報告書謄本
P28 監査役会の監査報告書謄本

(ご参考)
P29 トピックス

証券コード：6507

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜りありがたく厚く御礼申しあげます。

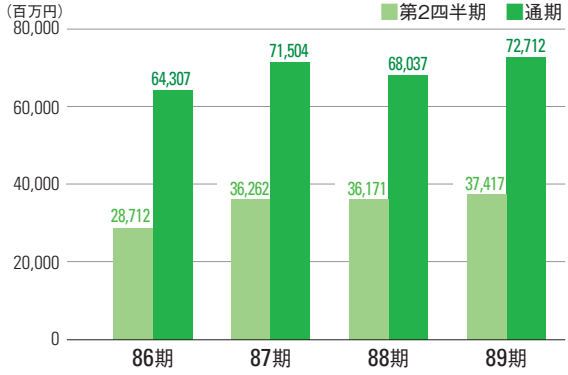
当社グループはこの３月31日をもちまして、第89期事業年度を終了いたしましたので、ここに業績の概況をご報告申しあげます。

なお、当期の当社の期末配当につきましては、１株当たり３円の配当をすることとして、第89回定時株主総会におはかりさせていただきたく存じます。

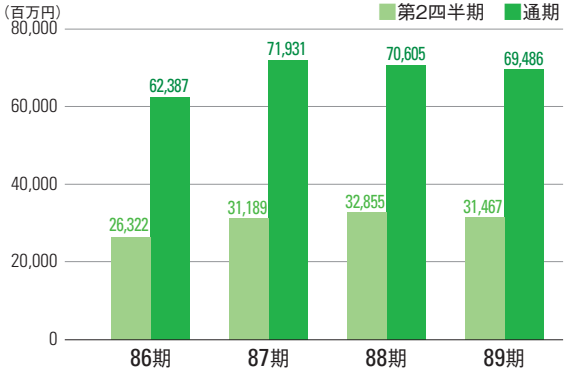
株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

取締役社長　武藤昌三

受注高



売上高



事業報告 （平成24年４月１日より平成25年３月31日まで）

1 企業集団の現況に関する事項

(1)事業の経過及びその成果

当連結会計年度における当社グループを取り巻く経営環境は、欧州の景気後退、中国の経済成長鈍化に伴い輸出や民間設備投資が減少したことにより低調に推移いたしました。しかしながら、年度後半から株式・為替市場では景況感の改善が見られ、依然として米国の歳出削減の影響や欧州債務危機の再燃など不透明な要素はあるものの、来年度に向けて明るい兆しが出てまいりました。

このような景況の下で当社グループといたしましては、2010年度から始まった３ヵ年のグループ中期経営計画「SFG 2012」（Speed Flexibility Global 2012）の最終年度を迎え、本中期経営計画の事業戦略に沿って、海外事業の拡大やエコ関連製品の開発・販売活動に取り組んでまいりました。

具体的には、海外事業推進部をグローバル事業統括本部へ改編して海外事業に取り組む体制の強化、成長市場であるインドネシアに事業展開をするための情報収集拠点として駐在員事務所の設立、海外販売・調達を拡大するために中国・広州に事務所開設の決定、さらにOA機器用マイクロクラッチの中国・東莞における生産拠点の現地法人化などを行ってまいりました。

また、小規模スマートグリッドシステム（ナチュエネ®）や航空機用地上電源装置などの販売活動に取り組んでまいりました。

なお、当社は、執行役員制度を導入し、経営の意思決定・監督機能と業務執行機能を分離してコーポレート・ガバナンスを強化するとともに、経営環境の変化にスピーディかつフレキシブルに対応する体制を構築いたしました。

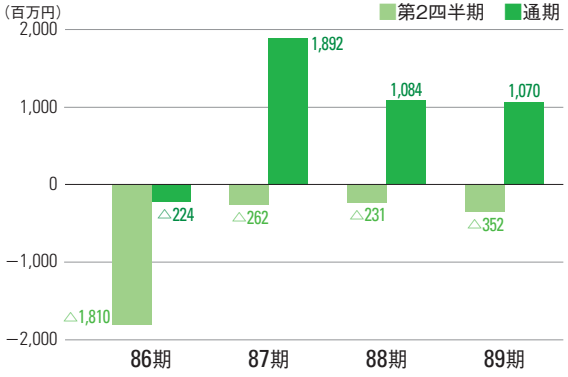
企業集団の業績（連結業績）につきましては、受注高は727億12百万円（前連結会計年度比6.9％増）、売上高は694億86百万円（同1.6％減）となりました。損益面につきましては、経常利益は10億70百万円（同1.3％減）となり、当期純利益は６億79百万円（同10.6％減）となりました。

前述の諸施策に取り組んでまいりましたが、世界的な景気の停滞及び円高の進行等により、誠に遺憾ながらグループ中期経営計画「SFG 2012」の目標を達成することができませんでした。

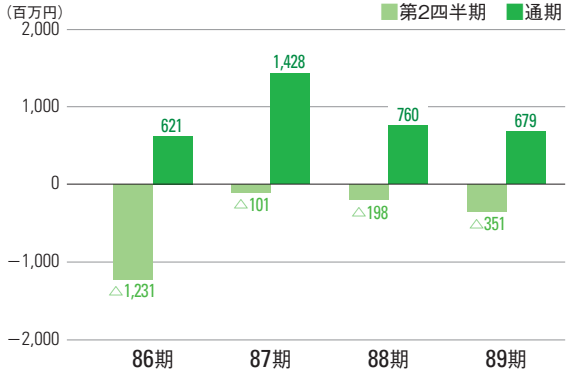
当期の当社の期末配当につきましては、１株当たり３円の配当をすることとしておはかりさせていただきたく存じますので、皆様のご理解を賜りますようお願い申しあげます。

当連結会計年度におけるセグメント別概況は次の通りであります。

経常利益



当期（四半期）純利益

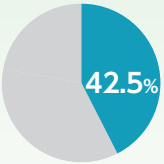


セグメント別概況（連結）

モーション機器事業

受注高	317億 58百万円 （前連結会計年度比 4.2%増）
売上高	295億 29百万円 （前連結会計年度比 3.6%減）

売上高構成比



受注高は、国内外において電磁クラッチ等の市況が停滞した影響を受け、モーションコントロール機器部門が低迷いたしましたが、一方で、航空宇宙部門において補修案件が増加したことや、大型搬送システム部門において大型案件を獲得したことなどにより、事業全体としては、前連結会計年度に比べ12億67百万円増加いたしました。

しかしながら売上高は、航空宇宙部門において受注高は増加したものの売上時期が翌連結会計年度となる案件が多かったこと、また、モーションコントロール機器部門の受注減少が影響したことなどにより、事業全体としては、前連結会計年度に比べ11億４百万円減少いたしました。

開発面では、モーションコントロール機器部門において、主に物流市場における倉庫内搬送などに用いられるバッテリ駆動の搬送装置向けに、直流電源に対応したダイレクトドライブモータを開発いたしました。本製品は、従来方式では必要であった減速機を介さずに動力を直接伝えることにより、油漏れやギヤの消耗によるメンテナンスが不要な構造といたしました。今後、物流市場以外にも需要が拡大すると考えられ、一層の拡販に注力してまいります。プリンタ部門につきましては、世界最小クラスかつ最軽量となる、８インチ対応の業務用昇華型デジタルフォトプリンタを上市いたしました。本製品は、従来からの高速かつ高画質なプリント性能を維持したまま、サイズ・重量ともに２分の１にまでコンパクト化を実現したため、様々な用途でより自由に設置場所を選んで使用することができます。また、当社従来製品と比べて、待機状態での消費電力を５分の１以下に低減しており、環境にやさしいエコプリンタでもあります。

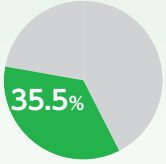
ダイレクトドライブモータ

コンパクトサイズ
昇華型デジタルフォトプリンタ

パワーエレクトロニクス機器事業

受注高	236億 53百万円 (前連結会計年度比 3.9%増)
売上高	246億 99百万円 (前連結会計年度比 4.1%減)

売上高構成比



受注高は、市場競争激化等によりインフラシステム部門（官公庁向け電気設備など）や振動機部門が不調でしたが、一方で、クリーン搬送機器部門において半導体業界の市況が低調な中でもN2パージ式ロードポートの販売が大きく貢献したことや、自動車業界における開発投資の復調を受けて自動車用試験装置部門が好調であったことなどにより、事業全体としては、前連結会計年度に比べ８億98百万円増加いたしました。

しかしながら売上高は、当連結会計年度の期首の受注残高が低水準であったこと、また、自動車用試験装置部門において売上時期が翌連結会計年度となる案件があることなどにより、事業全体としては、前連結会計年度に比べ10億62百万円減少いたしました。

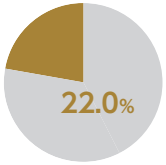
開発面では、パーツフィーダ部門において、注射器・ボルトなどの製造にあたり、部品を工程から工程へ搬送する電磁振動式リニアフィーダの新製品を開発いたしました。本製品は、ユーザーの小型化ニーズに応えパワーアップしたことで従来と変わらない搬送距離を維持しております。また、本製品の振動が床や設備に伝わることによる影響を当社独自の振動制御技術を駆使したことにより低減させることに成功しました。また、搬送部の取付け位置等の構造を見直したことにより、本製品の利便性の向上もあわせて実現しております。

電磁振動式リニアフィーダ

サポート&エンジニアリング事業

受注高	173億 00百万円 (前連結会計年度比17.0%増)
売上高	152億 57百万円 (前連結会計年度比 7.4%増)

売上高構成比



当社全般に関わり、当社の業務及び当社事業に付随するサービス・エンジニアリング業務を主たる事業とする子会社をサポート＆エンジニアリング事業としており、前連結会計年度と比べ受注高は25億９百万円増加し、売上高は10億47百万円増加いたしました。

⑵対処すべき課題

新たなグループ中期経営計画につきましては、創業100年を迎える2017年度を最終年度とし、新たな成長を追求するために、「世界市場で勝てる事業」、「新興国需要で利益を創出できる事業」、「国内高収益事業」に経営資源を集中的に投下することを基本方針とする５ヵ年計画を現在策定中です。なお、本計画策定中も基本方針に沿って事業強化のための取組を積極的に行ってまいります。

今後の当社グループを取り巻く経営環境は、ドル高円安基調の継続、中国をはじめとするアジア地域の経済成長により輸出は拡大していくと期待されますが、地政学的リスクや欧州の景気変動など不透明な要素が多く、景気を下押しするリスクがあります。

このような環境下で当社グループといたしましては、これまで構築してきた海外拠点網の活動を加速させて事業拡大を図ることに加え、営業力・マーケティング力をさらに強化し、国内外を問わずビジネスチャンスを的確に捉えることにより、受注の最大化を図ってまいります。また、新分野・新事業を開拓するための取組を強化してまいります。

今後さらに成長し続ける企業グループとして株主の皆様、顧客の皆様から評価していただけるよう、引き続きグループを挙げて飛躍を遂げるべく努力を重ねてまいる所存でございます。

⑶設備投資の状況

当連結会計年度における設備投資の主なものは、次の通りであります。

①当連結会計年度中に完成した主要設備

当社鳥 羽 工 場：300トン自動プレス機の更新

②当連結会計年度継続中の主要設備

当社豊橋製作所：技術開発センターの建設

⑷財産及び損益の状況の推移

①企業集団の財産及び損益の状況の推移

項目 ＼ 年度	平成21年度 第 86 期	平成22年度 第 87 期	平成23年度 第 88 期	平成24年度 (当連結会計年度) 第 89 期
受注高 (百万円)	64,307	71,504	68,037	72,712
売上高 (百万円)	62,387	71,931	70,605	69,486
経常利益 (百万円)	△224	1,892	1,084	1,070
当期純利益 (百万円)	621	1,428	760	679
1株当たり当期純利益 (円)	4.17	9.60	5.11	4.57
総資産 (百万円)	86,414	89,587	83,956	82,116

(注) 1．平成21年度につきましては、モーションコントロール機器やインフラシステムなどが不調で受注高・売上高ともに減少し、それに伴い経常損失を計上いたしましたが、退職給付財政の健全化を目的として当社が保有する株式の一部を退職給付信託に拠出したことによる、退職給付信託設定益を特別利益として計上したこともあり、当期純利益を計上することとなりました。
平成22年度につきましては、モーションコントロール機器やクリーン搬送機器が好調であったことにより受注高・売上高ともに増加し、それに伴い利益も増加いたしました。
平成23年度につきましては、プリンタシステムやインフラシステム、クリーン搬送機器が不調であったことにより受注高・売上高ともに減少し、それに伴い利益も減少いたしました。
平成24年度につきましては、「⑴事業の経過及びその成果」に記載しております。
2．1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式総数（自己株式を除く）に基づき算出しております。

②当社の財産及び損益の状況の推移

項目 ＼ 年度	平成21年度 第 86 期	平成22年度 第 87 期	平成23年度 第 88 期	平成24年度 (当 期) 第 89 期
受注高 (百万円)	51,854	56,195	52,746	54,353
売上高 (百万円)	49,291	56,689	55,627	53,173
経常利益 (百万円)	45	1,729	1,066	931
当期純利益 (百万円)	630	1,166	705	644
1株当たり当期純利益 (円)	4.24	7.84	4.74	4.34
総資産 (百万円)	82,815	85,427	79,539	77,253

(注) 1．当社の財産及び損益の変動の要因は、企業集団の財産及び損益の変動の要因と同様の理由によるものです。
2．1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式総数（自己株式を除く）に基づき算出しております。

(5)重要な子会社の状況

会社名	資本金	当社の出資比率	主要な事業内容
シンフォニア商事㈱	百万円 200	% 100.00	保険代理業、倉庫・運送業、鍍金製品・機械部品・石油製品の販売、旅行業
㈱S&Sエンジニアリング	200	100.00	病院・オフィス・工場・倉庫内用搬送システムの販売、エンジニアリング
シンフォニアエンジニアリング㈱	100	100.00	電気・機械設備工事の請負、エンジニアリング、電気機械器具・自動券売機のサービス
シンフォニアマイクロテック㈱	84	100.00	マイクロクラッチの製造、販売
㈱セルテクノ	60	100.00	電気・電子機器類の設計、試験、労働者派遣業、経理・給与業務
㈱大崎電業社	48	100.00	電磁クラッチ・電磁ブレーキ等の製造、販売
㈱アイ・シー・エス	32	100.00	ソフトウェアの開発、ＯＡ機器の販売
達機(香港)有限公司	百万香港ドル 2	100.00 (100.00)	マイクロクラッチの販売
達機機電(東莞)有限公司	百万米ドル 2.1	100.00 (100.00)	マイクロクラッチの製造

(注) 1. 当社の連結子会社は上記の９社であります。
2. 上表当社の出資比率の（　）内は間接保有割合であります。
3. 本年１月、達機（香港）有限公司の子会社として達機機電（東莞）有限公司を設立し、当社の連結子会社といたしました。
4. 本年３月、シンフォニアマイクロテック㈱は、㈱ダイケンから商号を変更いたしました。

(6)主要な事業内容

セグメント	主要な製品・サービス
モーション機器	昇華型デジタルフォトプリンタ、リライタブルプリンタ、宇宙ロケット用電装品、航空機用電装品、駅務関連機器、サーボアクチュエータ、アクティブ制振装置、電磁クラッチ・ブレーキ、鉄道・建設車両用電装品、空港用地上支援車両、超重量物搬送用大型自走台車、小形風力発電システム　等
パワーエレクトロニクス機器	自動車用評価システム、実車衝突実験システム、上下水道電気計装設備、道路管理用電気設備、リフティングマグネット、サブマージドモータ、真空溶解炉、鉄鋼プラント用電気システム、中小形発電機、振動式搬送機器、コーヒー焙煎設備、パーツフィーダ、半導体製造装置用ハンドリング機器、液晶ガラス基板用ハンドリング機器　等
サポート＆エンジニアリング	電気・機械設備工事の請負・エンジニアリング、電気機械器具のサービス、病院内搬送システムのエンジニアリング、当社周辺サービス・福利厚生関連業務、倉庫・運送業、経理・給与業務・設計業務の受託、労働者派遣業、ソフトウェアの開発、ＯＡ機器の販売　等

(7)主要な営業所及び工場

①当社の主要な営業所及び工場

本　社　東京
支　社　大阪、名古屋
支　店　九州（福岡）
営業所　東北（仙台）、新潟、北陸（富山）、静岡、三重（伊勢）、四国（高松）、中国（広島）
工　場　伊勢製作所、豊橋製作所、鳥羽工場

②主要な子会社の本社所在地

シンフォニア商事㈱（伊勢）、㈱S＆Sエンジニアリング（東京）、シンフォニアエンジニアリング㈱（伊勢、東京）、シンフォニアマイクロテック㈱（明石）、㈱セルテクノ（伊勢）、㈱大崎電業社（東京）、㈱アイ・シー・エス（伊勢）、達機（香港）有限公司（中華人民共和国・香港）、達機機電（東莞）有限公司（中華人民共和国・東莞）

（注）平成24年８月、㈱S＆Sエンジニアリングは川崎市から本社を移転いたしました。

(8)従業員の状況

①企業集団の従業員数

セグメント	従業員数	前連結会計年度末比増減
モーション機器	1,681名	509名増
パワーエレクトロニクス機器	964名	16名減
サポート＆エンジニアリング	777名	17名減
計	3,422名	476名増

（注）1. 上表には臨時従業員等は含んでおりません。
2. 就業人員数を記載しております。

②当社の従業員数等

従業員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
2,011名	51名減	37.5才	14.3年

（注）1. 上表には臨時従業員等は含んでおりません。
2. 就業人員数を記載しております。

(9)主要な借入先

借入先	借入額
	百万円
㈱みずほコーポレート銀行	5,731
㈱三菱東京UFJ銀行	2,863
㈱三井住友銀行	2,858
三井住友信託銀行㈱	2,829
㈱日本政策投資銀行	2,082
みずほ信託銀行㈱	1,847
兵庫県信用農業協同組合連合会	1,838
三菱UFJ信託銀行㈱	1,828

2 会社の株式に関する事項

(1)発行可能株式総数　580,000,000株

(2)発行済株式の総数　148,735,939株（自己株式209,672株を除く）

(3)株主数　18,835名

(4)大株主（上位10名）

株主名	持株数	出資比率
日本マスタートラスト信託銀行㈱退職給付信託口（㈱神戸製鋼所）	29,483千株	19.82%
ダイキン工業㈱	5,085	3.42
大日本印刷㈱	3,664	2.46
シンフォニアテクノロジー従業員持株会	3,433	2.31
シンフォニアテクノロジー取引先持株会	2,770	1.86
日本トラスティ・サービス信託銀行㈱（信託口）	2,746	1.85
ナブテスコ㈱	2,309	1.55
あいおいニッセイ同和損害保険㈱	2,256	1.52
神鋼商事㈱	2,000	1.34
日本マスタートラスト信託銀行㈱（信託口）	1,677	1.13

（注）1. 日本マスタートラスト信託銀行㈱退職給付信託口（㈱神戸製鋼所）の持株数29,483千株は㈱神戸製鋼所から同信託銀行へ信託設定された信託財産です。信託約款上、当該株式の議決権の行使についての指図権限は㈱神戸製鋼所が保有しております。
2. 出資比率は自己株式（209,672株）を控除して計算しております。

3 会社役員に関する事項

(1)取締役及び監査役の氏名等

氏　　名	地位及び担当	重　要　な 兼職の状況
武　藤　昌　三	代表取締役社長	—
一　木　春　生	代表取締役専務（社長補佐、本社部門の管掌、全社コンプライアンスの担当）	—
加　藤　一　路	取　締　役（グローバル事業統括本部長、調達本部長）	—
大　森　　誠	取　締　役（営業業務統括部、支社・支店・営業所及びITテクニカルセンターの管掌、電機システム本部長）	—
古　谷　浩　三	取　締　役（電子精機本部長、同本部伊勢製作所長）	—
斉　藤　文　則	取　締　役（新事業企画部の担当、開発本部長）	—
小　原　孝　秀	取　締　役（全社リスク管理及び資金部の担当、経営企画部長）	—
＊渡　辺　壯　嘉	取　締　役（非常勤）	—
廣　田　邦　彦	常勤監査役	—
＊百　家　俊　次	常勤監査役	—
野　本　俊　輔	監　査　役（非常勤）	弁護士
＊小　林　義　行	監　査　役（非常勤）	—

（注）1. 取締役のうち渡辺壯嘉は社外取締役であり、㈱東京証券取引所の定めに基づく独立役員として同取引所に届け出ております。
2. 監査役のうち廣田邦彦、野本俊輔及び小林義行は社外監査役であり、㈱東京証券取引所の定めに基づく独立役員として同取引所に届け出ております。
3. 上表＊印の者は、平成24年６月28日開催の第88回定時株主総会において、新たに取締役及び監査役に選任され就任いたしました。
4. 当期中の取締役及び監査役の退任は次の通りであります。

氏　　名	地位及び担当（退任時）	退任年月日	退 任 事 由
増　子　博　一	取　締　役（営業業務統括部、支社・支店・営業所及びコントローラ開発営業部の担当、電子精機本部副本部長）	平成24年６月28日	任期満了
木　本　伸　一	取　締　役（電子精機本部副本部長）	平成24年６月28日	任期満了
信　貴　幹　夫	取　締　役（電子精機本部副本部長）	平成24年６月28日	任期満了
常　光　茂　久	取　締　役（調達本部長）	平成24年６月28日	任期満了
青　田　　勝	取　締　役（電機システム本部副本部長、同本部電機システム営業戦略センター長）	平成24年６月28日	任期満了
松　岡　孝　夫	取　締　役（ITテクニカルセンターの担当、電機システム本部副本部長、同本部豊橋製作所長）	平成24年６月28日	任期満了
高　橋　芳　明	取　締　役（監査部、法務部及び海外事業推進部の担当、総務人事部長）	平成24年６月28日	任期満了
渡　辺　壯　嘉	常勤監査役	平成24年６月28日	任期満了
山　田　英　二	常勤監査役	平成24年６月28日	任期満了

5. 監査役のうち廣田邦彦は、神鋼商事㈱で資金部長、取締役及び常務執行役員として資金部の担当を歴任し、また百家俊次は、当社の資金部門に従事したうえ資金部長を務め、それぞれ財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
6. 平成24年６月28日をもって、次の通り取締役の地位の異動がありました。

氏　　名	異動前の地位	異動後の地位
加　藤　一　路	専務取締役	取締役
大　森　　誠	常務取締役	取締役
古　谷　浩　三	常務取締役	取締役
斉　藤　文　則	常務取締役	取締役

7. 当社は、経営の意思決定・監督機能と業務執行機能を分離してコーポレート・ガバナンス体制を強化するとともに、経営環境の変化にスピーディかつフレキシブルに対応するため、執行役員制度を導入しております。執行役員は次の通りであります。

氏　　名	地位及び担当
※加　藤　一　路	専務執行役員（グローバル事業統括本部長、調達本部長）
※大　森　　誠	常務執行役員（営業業務統括部、支社・支店・営業所及びITテクニカルセンターの管掌、電機システム本部長）
※古　谷　浩　三	常務執行役員（電子精機本部長、同本部伊勢製作所長）
※斉　藤　文　則	常務執行役員（新事業企画部の担当、開発本部長）
※小　原　孝　秀	常務執行役員（全社リスク管理及び資金部の担当、経営企画部長）
信　貴　幹　夫	執　行　役　員（電子精機本部副本部長）
常　光　茂　久	執　行　役　員（営業業務統括部及び支社・支店・営業所の担当、電機システム本部副本部長）
青　田　　勝	執　行　役　員（電機システム本部副本部長）
松　岡　孝　夫	執　行　役　員（ITテクニカルセンターの担当、電機システム本部副本部長、同本部豊橋製作所長）
高　橋　芳　明	執　行　役　員（監査部及び法務部の担当、総務人事部長）
平　野　新　一	執　行　役　員（電機システム本部副本部長、同本部豊橋製作所副製作所長、同本部電機システム工場長）
川　久　　伸	執　行　役　員（電機システム本部副本部長、同本部クリーン搬送機器営業部長）
鈴　木　康　友	執　行　役　員（電子精機本部副本部長）
仲　　眞　司	執　行　役　員（電子精機本部副本部長、同本部航空宇宙第一営業部長）
三　木　利　夫	執　行　役　員（電子精機本部副本部長、同本部伊勢製作所副製作所長、同本部プリンタシステム工場長）

（注）上表※印の者は、取締役を兼務しております。

⑵当事業年度に係る取締役及び監査役の報酬等の額

取締役	15名	242,149千円
監査役	6名	48,241千円
（うち、社外役員	5名	33,120千円）

（注）1. 上記には、平成24年６月28日開催の第88回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役７名及び監査役２名が含まれております。
2. 上記、報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与・賞与は含まれておりません。

⑶社外役員に関する事項

①当事業年度における主な活動状況

氏　名	区　分	主な活動状況
渡　辺　壮　嘉	社外取締役	期中の選任後10回開催された取締役会のうち９回に出席し、他の会社における役員等としての豊富な経験に基づき必要な発言を適宜行いました。
廣　田　邦　彦	社外監査役	期中に13回開催された取締役会の全てに出席し、また、期中に13回開催された監査役会の全てに出席し、他の会社における役員等としての豊富な経験や、財務・会計に関する業務経験に基づき必要な発言を適宜行いました。
野　本　俊　輔	社外監査役	期中に13回開催された取締役会の全てに出席し、また、期中に13回開催された監査役会の全てに出席し、弁護士として法令についての高度な知識・識見に基づき必要な発言を適宜行いました。
小　林　義　行	社外監査役	期中の選任後10回開催された取締役会の全てに出席し、また、期中の選任後10回開催された監査役会の全てに出席し、他の会社における役員等としての豊富な経験に基づき必要な発言を適宜行いました。

（注）書面決議による取締役会の回数は除いております。

②責任限定契約の内容の概要

渡辺壮嘉、廣田邦彦、野本俊輔及び小林義行は、当社と会社法第423条第１項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償責任限度額は、法令の定める最低限度額となります。

4 会計監査人の状況

(1)会計監査人の名称

有限責任 あずさ監査法人

(2)当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

①当事業年度に係る会計監査人としての報酬等
39百万円
②当社及び当社子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額
44百万円

(注) 1．当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬の額を区分しておりませんので、①の金額には金融商品取引法に基づく監査の報酬等の額を含めて記載しております。
2．当社の子会社である達機（香港）有限公司及び達機機電（東莞）有限公司は、当社の会計監査人以外の監査法人による監査を受けております。

(3)非監査業務の内容

当社は会計監査人に対して、公認会計士法第２条第１項の業務以外の業務（非監査業務）である「財務デューデリジェンス業務」を委託しております。

(4)会計監査人の解任または不再任の決定の方針

当社では、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第１項各号記載のいずれかに該当すると認められる場合には、監査役全員の同意のもとに会計監査人を解任いたします。

また、取締役会は、会計監査人が会計監査を適切に遂行できないと判断される場合、その他その必要があると判断される場合には、監査役会の同意を得て、または監査役会の請求に基づき、会計監査人の解任または不再任の議案を株主総会に提出いたします。

5 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制

①取締役・使用人の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- 当社は、「企業倫理規範」「企業行動基準」を制定し、法令・定款の遵守と高い倫理観の醸成を命題として、コンプライアンス体制の整備に取り組み、社内の意識強化と問題の未然防止に努めています。
- 「コンプライアンス委員会規程」に従って全社コンプライアンスの担当役員を任命し、また、関係会社の代表や外部有識者も加えたコンプライアンス委員会と、各部門でのコンプライアンス活動を推進する組織を設置しています。加えて弁護士など、外部の専門家からも適宜アドバイスを受けています。
- 法令・定款違反に関する報告体制として、スピークアップ制度（内部通報制度）を設置しています。また、不祥事が発生した場合は、トップマネージメント、取締役会、監査役会に報告が行われています。
- 監査部による内部監査を行っています。
- 財務報告に係る内部統制についても、整備・運用の基本方針に基づき、継続的な運用と改善を図っています。
- 当社は、「企業倫理規範」「企業行動基準」において反社会的勢力との絶縁を宣言するとともに、対応に当たっての基本的な考え方を定めています。

②取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- 当社は、取締役の意思決定及び職務の遂行に係る情報の保存及び管理については、責任部門において社内規程に基づき行っています。これら社内規程は、必要に応じて見直し等を行っています。

③損失の危険の管理に関する規程その他の体制

・当社は、現下の激しい経営環境の変化の中で、ビジネス、法令違反、安全衛生・環境、天災地変、情報通信などに起因するリスクの評価と対応を適切に行うため、リスク管理に関わる基本的事項を定めた「リスク管理規程」、並びにリスク管理活動の行動要領を定めた「リスク管理大綱」を策定し、リスク管理担当役員の任命、リスク管理委員会の設置等により、リスク管理体制を整備しています。

・当社並びにグループ全体の事業活動に影響を及ぼす危機の発生時には、取締役及び執行役員は、速やかに情報を収集し、代表取締役へ報告するとともに、対応策を実施します。

④取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

・当社は、経営戦略及び経営課題を明確にするために、中期経営計画や年度の経営計画を策定し、その達成度合いを、業績管理制度を通じてチェックしています。

・毎月の定例及び臨時の取締役会、経営会議、事業執行会議を開催し、迅速かつ多面的に経営意思の決定とフォローを行っています。

・当社は執行役員制度を採用し、経営の意思決定・監督機能と業務執行機能を分離することにより、経営環境の変化に迅速かつ柔軟に対応しつつ業務を執行する体制としています。

・取締役は、担当する業務について執行役員から執行状況の報告を受けることにより、監督機能を果たせる体制を整備しています。

・決裁制度、予算制度、人事管理制度などを整備し、適切な権限委譲の下、効率的に職務が執行されるような体制を整備しています。

⑤当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

・当社は、関係会社管理規程に基づき、統括部門、事業運営管理部門、業務サポート部門を定め、あわせて経営企画部に専任のスタッフを置くことを定め、グループ運営を行っています。

・グループ全体に影響を及ぼす重要事項については、会議開催による多面的な検討を経て、慎重に決定しています。

・主要な子会社に対しては、当社から取締役や監査役を派遣するとともに、子会社の月例幹部会に出席し、事業運営状況を確認しています。

・グループ企業を含めてコンプライアンス活動を推進しています。また、海外現地法人の活動についても国内の取組に準じ、現地の法令や文化習慣等も尊重しながら推進しています。

⑥監査役がその職務の補助をすべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制

・当社は、監査部が監査役監査を補助しています。

・監査部は監査役会の事務局業務を担当して、監査役あるいは監査役会の指示に従ってその職務を補助しています。

⑦監査役の職務を補助すべき使用人の取締役からの独立性に関する事項

・当社は、監査部に属する使用人の、取締役あるいはその他の使用人からの独立性を確保するため、その任命、異動、評価、懲戒等の人事権に係る事項について、監査役会と事前に協議しています。

⑧取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制

・当社の取締役及び使用人は、「監査役監査基準」に従い、監査役に対してその要請に応じて資料を閲覧に供し、あるいは報告を行っています。

・監査役は、取締役の職務執行を監査するため、取締役会、事業執行会議等の重要な会議への出席及び重要な決裁書類の閲覧等を行っています。

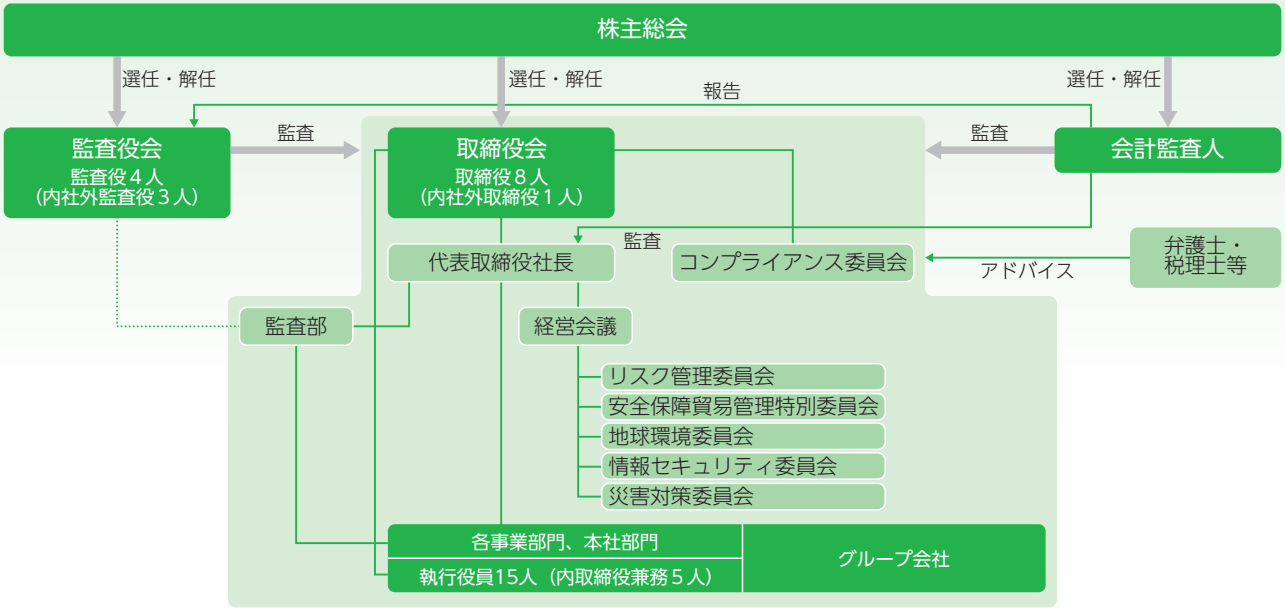
⑨監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

・当社は、監査役の監査の実効性を確保するため、監査役会で決議した「年度監査方針・計画」を毎年取締役会で確認するほか、監査役からの要請に基づき、その円滑な監査活動を保障するための環境整備に努めています。

・監査役と代表取締役、会計監査人との意見交換の機会を設けています。

・監査役は、監査部から内部監査に関する報告を随時受けています。

コーポレート・ガバナンス体制の概要



6 株式会社の支配に関する基本方針

(1)当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針の内容の概要

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業価値の源泉を理解し、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上していくことを可能とする者である必要があると当社取締役会は考えております。上場会社である当社の株式については自由な取引が認められており、当社取締役会は、当社に対し大規模買付行為（下記(3)2）①において定義されます。以下同じです。）が行われた場合に、これを受け入れるか否かの最終的な判断については、その時点における株主の皆様に委ねられるべきであると考えております。

しかしながら、大規模買付行為には、その目的等から見て①企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、②株主に株券等の売却を事実上強要するおそれがあるもの、③対象会社の取締役会や株主が株券等の大規模買付行為の内容等について検討しあるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、④対象会社が買収者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買収者との協議・交渉を必要とするもの等、対象会社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

当社は、当社の企業価値の源泉は、①多岐にわたる製品を、機械・電気・制御の開発・生産から販売まで行う一貫体制、②創業90年余の豊富な経験とノウハウに裏づけされた高度な技術力、③ステークホルダーとの間で長年にわたり築き上げてきた信頼関係、④事業組織間での人材、固有技術、製造技術等のシナジーを積み重ねていく企業風土、⑤組織、人材のシナジーを引き出す経営と従業員の信頼関係にあると考えており、当社株券等の大規模買付行為を行う者がこのような当社の企業価値の源泉を理解した上で、これらを中長期的に確保し、向上させられるのでなければ、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益は毀損されることになります。また、外部者である大規模買付者（下記(3)2）②において定義されます。以下同じです。）により大規模買付行為がなされる場合に、株主の皆様がこれに応じるか否かを決定するに際しては、大規模買付者から、事前に、株主の皆様の判断のために必要かつ十分な大規模買付行為に関する情報が提供される必要があると

考えており、かかる情報が明らかにされないまま大規模買付行為が強行される場合には、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益は毀損される可能性があります。

当社としては、このような当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益に資さない大規模買付行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であり、このような者による大規模買付行為に対しては必要かつ相当な対抗手段を講じることにより、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を確保する必要があると考えております。

⑵基本方針の実現に資する特別な取組の内容の概要

1）当社の今後の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に向けた取組について

①当社の企業理念及び企業価値の源泉について

当社は、経営基本理念である『品質第一の考えに立ち、エレクトロニクス応用技術を核としたユーザーの満足する製品・サービスを提供し、産業・社会に貢献する』の精神に基づき、継続的な成長と収益確保を図っております。

当社は、大正６年（1917年）の創業以来、電磁応用力技術と精密機構技術を基盤に幅広い分野に事業領域を広げ、現在では、航空機用電子機器、カラープリンタ、電磁クラッチ、半導体ウェーハ搬送機器、社会インフラ電気設備等の多様な製品をお客様に提供しております。

当社の企業価値の確保・向上を目指す上で、企業価値の源泉は、以下に掲げる要素にあるものと考えております。

⑴官公庁から半導体メーカーや写真関連メーカーまで多岐にわたるお客様のニーズを捉えた製品を、電子機器、精密機械、制御・ソフトの開発・生産から販売まで行う一貫体制

⑵創業90年余の豊富な経験とノウハウに裏づけされた高度な技術力

⑶株主の皆様はもちろん、お客様・取引先・地域関係者等のステークホルダーとの間で長年にわたり築き上げてきた信頼関係

⑷個々の事業組織間での人材の支援や保有技術の相互利用、生産現場での技能協力等のシナジーを積み重ねていく企業風土

⑸当社の企業風土と歴史的背景を深く理解し、最大限の効果を引き出す経営と従業員の信頼関係

②当社の今後の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に向けた取組について

当社は、利益を伴った成長により財務体質の強化と株主の皆様への安定配当を同時に達成し、成長し続けるシンフォニアテクノロジーグループを実現することを目指し、平成22年より中期経営計画「SFG 2012」を策定し、事業活動に取り組んでおります。この中期経営計画では、既存顧客・市場等の環境変化にスピーディに適応し、今後の成長が期待される海外での事業拡大、環境・エコロジー分野での事業創出を行い、シンフォニアテクノロジーグループがグローバルに成長することを基本方針としております。

中期経営計画の重点施策としては、上記の中国等アジア新興国を始めとする海外での事業拡大及び次世代自動車、産業車両の電動化や自然エネルギーを利用した分散型電力供給システムなどの環境・エコロジー分野での事業創出に加え、強固な事業基盤の構築、経営システムの改革及びグループ経営強化に取り組んでおります。

今後とも当社の企業価値の確保・向上に向けて、独自の企業風土を維持・発展させていく上で、電子機器、精密機械、制御・ソフトの設計・開発に関わる高度な技術や溶接・加工等の製造技術・技能を支えてきた団塊世代の技能伝承は、重要事項であります。

このように、当社は、今後も企業価値＝業績向上を続けていくため、機械やデータに置き換えることができない技能や組織間のシナジーの重要性を大切にする企業風土を醸成するとともに、これを深く理解する経営と従業員との信頼のさらなる強化に取り組んでまいります。

2）企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上の基盤となる仕組み－コーポレートガバナンスの整備

当社は、経営目標を達成する過程においても、各ステークホルダーとのより良好な関係にも配慮すべきであると考えており、かかる目的達成のために、各ステークホルダーの皆様のご理解とご支援をいただくこと、及び法令・定款の遵守と高い倫理観の醸成を命題として、コンプライアンス体制の整備に取り組み、企業価値の確保・向上と経営チェック機能の充実をともに図ることを目指しております。具体的な施策としては、外部からの経営チェック・助言により適切な経営に資するため、弁護士など外部の専門家から適宜アドバイスを受けるほか、独立性のある社外取締役１名及び社外監査役３名を選任し、また、コンプライアンスに対する社内の意識強化と問題の未然防止に資するため、全社コンプライアンスの担当役員を任命し、また、関係会社の代表や外部有識者も加えたコンプライアンス委員会の設置を行っております。さらに内部統制システムについて、その整備・運用に関する基本方針を定め、継続的な運用と評価・改善を図っております。

⑶基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組

当社は、上記⑴に記載した当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針（以下「基本方針」といいます。）に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組として、当社株券等の大規模買付行為に関する対応方針（買収防衛策）の更新に関する議案を平成23年６月29日開催の第87回定時株主総会に諮り、承認されました（更新後の対応方針を、以下「本対応方針」といいます。）。本対応方針の目的及び概要は以下の通りであります。

１）本対応方針の目的

本対応方針への更新は、上記⑴に記載した基本方針に沿って、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を確保し、向上させる目的をもって行われたものであります。

当社取締役会は、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益に資さない大規模買付行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えております。当社取締役会は、金融商品取引法及び関連政省令の改正等の動向を注視しつつ、また、昨今の買収防衛策に関する議論の進展等を踏まえ、このような不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するためには、当社株券等に対して大規模買付行為が行われた場合に、株主の皆様がこれを受け入れるか否かの最終的な判断を行ったり、あるいは当社取締役会が株主の皆様に代替案を提案するために必要な時間及び情報を確保するとともに、当社取締役会が株主の皆様のために大規模買付者と協議・交渉等を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益に反する大規模買付行為を抑止するための枠組みが引き続き必要不可欠であると判断いたしました。

そこで、当社取締役会は、基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組の一環として、本対応方針への更新を行うことを決定いたしました。

２）本対応方針の概要

①対象となる大規模買付行為

本対応方針においては、次の(ⅰ)もしくは(ⅱ)に該当する行為またはこれらに類似する行為（但し、当社取締役会が予め承認したものを除きます。以下「大規模買付行為」といいます。）がなされ、またはなされようとする場合には、本対応方針に基づく対抗措置が発動されることがあります。

(ⅰ)当社が発行者である株券等について、保有者の株券等保有割合の合計が20％以上となる買付け

(ⅱ)当社が発行者である株券等について、公開買付けに係る株券等の株券等所有割合及びその特別関係者の株券等所有割合の合計が20％以上となる公開買付け

②本対応方針に係る手続

本対応方針は、当社の株券等の大規模買付行為を行おうとし、または現に行っている者（以下「大規模買付者」といいます。）が現れた場合に、当該大規模買付者に対し、事前に当該大規模買付行為に関する情報の提供を求め、当社が、当該大規模買付行為についての情報収集・検討等を行う時間を確保した上で、株主の皆様に当社経営陣の計画や代替案等を提示したり、大規模買付者との交渉等を行うための手続を定めるものであります。なお、大規模買付者には、本対応方針に係る手続を遵守していただくこととし、大規模買付者は、本対応方針に係る手続の開始後、(ⅰ)当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成及び代替案立案のための期間（原則として60日間。以下「取締役会評価期間」といいます。）が終了するまでの間、及び(ⅱ)取締役会評価期間終了後であっても、対抗措置の発動の可否を問うための株主の総体的意思を確認する総会（以下「株主意思確認総会」といいます。）が招集された場合には、株主意思確認総会において対抗措置の発動に関する決議がなされるまでの間、大規模買付行為を実行してはならないものとしております。

③対抗措置の発動

大規模買付者が本対応方針において定められた手続（以下「大規模買付ルール」といいます。）に従うことなく大規模買付行為を行う場合、または、大規模買付者による大規模買付行為が当社の企業価値もしくは株主の皆様の共同の利益を著しく損なうおそれがある場合には、当社は、原則として、当該大規模買付者その他一定の者による権利行使は認められないとの行使条件及び当社が当該大規模買付者その他一定の者以外の者から当社株式と引換えに新株予約権を取得する旨の取得条項が付された新株予約権（以下「本新株予約権」といいます。）を、当社を除く全ての株主に対して新株予約権無償割当ての方法（会社法第277条以下に規定されます。）により割り当てることがあります。

④取締役会の恣意的判断を排するための独立委員会、株主意思確認総会の利用

本対応方針においては、本対応方針の運用ないし対抗措置の発動等に関する当社取締役会の恣意的判断を排し、その

判断の合理性及び公正性を担保することを目的として、独立委員会規程に従い、(ⅰ)当社社外取締役、(ⅱ)当社社外監査役、または(ⅲ)社外の有識者（弁護士、税理士、公認会計士、学識経験者、投資銀行業務に精通する者もしくは他社の取締役もしくは執行役として経験のある社外者等）で、当社経営陣から独立した者のみから構成される独立委員会（以下「独立委員会」といいます。）の客観的な判断を経ることとしております。当社取締役会は、対抗措置を発動するか否かの判断に際して、独立委員会による勧告を最大限尊重するものといたします。また、これに加えて、独立委員会が株主意思確認総会の招集を勧告した場合には、当社取締役会は、株主意思確認総会を招集し、対抗措置の発動に関する議案を付議することにより株主の皆様のご意思を確認するか否かについて、独立委員会の勧告を最大限尊重するものといたします。さらに、こうした手続の過程について、株主の皆様に適時に情報を開示することにより、その透明性を確保することとしております。

⑤本新株予約権の行使及び当社による本新株予約権の取得

仮に、本対応方針に従って本新株予約権の無償割当てがなされた場合で、大規模買付者その他一定の者以外の株主の皆様による本新株予約権の行使がなされた時、または当社による本新株予約権の取得と引換えに、大規模買付者その他一定の者以外の株主の皆様に対して当社株式が交付された時には、当該大規模買付者その他一定の者の有する当社株式の議決権割合は、一定程度希釈化される可能性があります。

3）本対応方針の有効期間、廃止及び変更について

本対応方針の有効期間は、平成26年６月に開催予定の当社定時株主総会の終結の時までとし、かかる有効期間の満了前であっても、(ⅰ)当社株主総会において本対応方針を廃止もしくは変更する旨の議案が承認された場合、または、(ⅱ)当社取締役会において本対応方針を廃止もしくは変更する旨の決議が行われた場合には、本対応方針はその時点で廃止または変更されるものといたします。

なお、本対応方針の詳細につきましては、平成23年４月22日付当社プレスリリース「当社株券等の大規模買付行為に関する対応方針（買収防衛策）の更新について」をご覧下さい。(当社ホームページ http://www.sinfo-t.jp)

⑷上記⑵の取組についての当社取締役会の判断

当社は、継続的な企業価値の向上こそが株主の皆様の共同の利益の向上のために最優先されるべき課題であると考え、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益の向上を目的に、上記⑵の取組を行っておりますが、これらの取組の実施を通じて、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を向上させ、それを当社の株式の価値に適正に反映させていくことにより、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を著しく損なうおそれのある当社株券等の大規模買付行為は困難になるものと考えられ、これらの取組は、上記⑴の基本方針に資するものであると考えております。

従いまして、上記⑵の取組は、上記⑴の基本方針に沿うものであり、株主の皆様の共同の利益を損なうものではなく、また、当社の役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

⑸上記⑶の取組についての当社取締役会の判断

本対応方針への更新は、上記⑴の基本方針に沿って、当社株券等に対して大規模買付行為が行われた場合に、株主の皆様がこれを受け入れるか否かの最終的な判断を行ったり、あるいは当社取締役会が株主の皆様に代替案を提案するために必要な時間及び情報を確保するとともに、当社取締役会が株主の皆様のために大規模買付者と協議・交渉等を行うこと等を可能とし、基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止することにより、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を確保し、向上させるという目的をもって行われたものであります。

また、下記１）から５）までの通り、本対応方針は、株主意思を重視するものであること、買収防衛策に関する指針の要件を完全に充足していること、合理的かつ客観的な対抗措置発動要件が設定されていること、取締役会の判断の合理性及び公正性を担保するため独立委員会が設置されていること、デッドハンド型買収防衛策ではないこと等から、本対応方針の運用ないし対抗措置の発動に関する取締役会の判断の合理性及び公正性が担保されているものであって、当社の役員の地位の維持を目的とするものではありません。

1）株主意思を重視するものであること

本対応方針は、本対応方針への更新に関する株主の皆様のご意思を確認するため、平成23年６月29日開催の第87回定時株主総会において、本対応方針への更新に関する議案が諮られ、承認されたものであります。

また、上記⑶３）に記載の通り、本対応方針の有効期間は平成26年６月に開催予定の当社定時株主総会の終結の時までとしておりますが、かかる有効期間の満了前であっても、(i)当社株主総会において本対応方針を廃止もしくは変更する旨の議案が承認された場合、または(ii)当社株主総会において選任された取締役によって構成される当社取締役会において本対応方針を廃止もしくは変更する旨の決議が行われた場合には、本対応方針はその時点で廃止または変更されます。また、独立委員会が株主意思確認総会の招集を勧告した場合には、当社取締役会は、独立委員会による勧告を最大限尊重して、対抗措置の発動に関する議案を株主意思確認総会に付議することがあり、これにより株主の皆様のご意思を直接確認することができることとしております。

２）買収防衛策に関する指針の要件を完全に充足していること等

本対応方針は、経済産業省及び法務省が平成17年５月27日に公表した「企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（①企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、②事前開示・株主意思の原則、③必要性・相当性確保の原則）を完全に充足しております。また、企業価値研究会が平成20年６月30日に公表した「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」その他昨今の買収防衛策に関する議論等を踏まえた内容となっております。さらに本対応方針は、東京証券取引所の定める買収防衛策の導入に係る諸規則等の趣旨に合致するものであります。

３）合理的かつ客観的な対抗措置発動要件の設定

本対応方針は、合理的かつ客観的な要件が充足されない限りは、対抗措置が発動されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みが確保されております。

４）独立委員会の設置

当社は、本対応方針において、大規模買付ルールに従って一連の手続が進行されたか否か、及び、大規模買付ルールが遵守された場合に当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を確保しまたは向上させるために必要かつ相当と考えられる一定の対抗措置を発動するか否か、株主意思確認総会を招集するか否かについての取締役会の判断の合理性及び公正性を担保するため、またその他本対応方針の運用ないし対抗措置の発動等に関する取締役会の判断の合理性及び公正性を確保するために、当社取締役会から独立した組織として、独立委員会を設置しております。

かかる独立委員会の勧告を最大限尊重して当社取締役会が判断を行うことにより、当社取締役会による恣意的な本対応方針の運用ないし対抗措置の発動を防止するための仕組みが確保されております。

５）デッドハンド型買収防衛策ではないこと等

上記⑶３）に記載の通り、本対応方針は、本対応方針の有効期間の満了前であっても、当社株主総会で選任された取締役で構成された取締役会により、いつでも廃止することができるものとされております。従いまして、本対応方針は、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交代させても、なお発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。また、当社の取締役の任期は、選任後１年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する当社定時株主総会の終結の時までとなっており、毎年の当社定時株主総会で取締役会の構成員の交代を一度に行うことができるため、本対応方針は、対抗措置の発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策でもありません。

以上の通り、上記⑶の取組は上記⑴の基本方針に沿うものであり、株主の皆様の共同の利益を損なうものではなく、また、当社の役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

（注）本事業報告中の記載金額及び株式数は、表示単位未満の端数を切り捨てております。

連結貸借対照表 (平成25年3月31日現在)

(単位：百万円)

資産の部	
流動資産	**46,190**
現金及び預金	5,737
受取手形及び売掛金	22,568
商品及び製品	1,069
仕掛品	9,257
原材料及び貯蔵品	4,953
繰延税金資産	1,070
その他	1,559
貸倒引当金	△25
固定資産	**35,925**
有形固定資産	27,030
建物及び構築物	9,151
機械装置及び車両運搬具	2,291
土地	14,163
その他	1,424
無形固定資産	164
投資その他の資産	8,731
投資有価証券	5,559
前払年金費用	1,198
その他	2,038
貸倒引当金	△65
資産合計	**82,116**

負債の部	
流動負債	**38,548**
支払手形及び買掛金	13,327
短期借入金	17,854
未払法人税等	558
受注損失引当金	187
その他	6,620
固定負債	**18,136**
長期借入金	13,647
繰延税金負債	258
再評価に係る繰延税金負債	1,942
退職給付引当金	703
役員退職慰労引当金	66
環境対策引当金	317
その他	1,199
負債合計	**56,685**
純資産の部	
株主資本	**20,908**
資本金	10,156
資本剰余金	452
利益剰余金	10,355
自己株式	△55
その他の包括利益累計額	**4,522**
その他有価証券評価差額金	839
繰延ヘッジ損益	△7
土地再評価差額金	3,639
為替換算調整勘定	49
純資産合計	**25,431**
負債及び純資産合計	**82,116**

連結損益計算書（平成24年4月 1日より 平成25年3月31日まで）

（単位：百万円）

売上高		69,486
売上原価		55,133
売上総利益		14,352
販売費及び一般管理費		12,954
営業利益		1,398
営業外収益		
受取利息及び配当金	96	
その他	251	347
営業外費用		
支払利息	405	
その他	270	675
経常利益		1,070
税金等調整前当期純利益		1,070
法人税、住民税及び事業税	740	
法人税等調整額	△350	390
少数株主損益調整前当期純利益		679
当期純利益		679

連結株主資本等変動計算書（平成24年4月 1日より 平成25年3月31日まで）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	**10,156**	**452**	**10,121**	**△54**	**20,677**
当期中の変動額					
剰余金の配当	—	—	△446	—	△446
当期純利益	—	—	679	—	679
自己株式の取得	—	—	—	△1	△1
自己株式の処分	—	—	△0	0	0
株主資本以外の項目の当期中の変動額（純額）	—	—	—	—	—
当期中の変動額合計	**—**	**—**	**233**	**△1**	**231**
当期末残高	**10,156**	**452**	**10,355**	**△55**	**20,908**

	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	**623**	**△16**	**3,639**	**△15**	**4,230**	**24,907**
当期中の変動額						
剰余金の配当	—	—	—	—	—	△446
当期純利益	—	—	—	—	—	679
自己株式の取得	—	—	—	—	—	△1
自己株式の処分	—	—	—	—	—	0
株主資本以外の項目の当期中の変動額（純額）	216	9	—	65	291	291
当期中の変動額合計	**216**	**9**	**—**	**65**	**291**	**523**
当期末残高	**839**	**△7**	**3,639**	**49**	**4,522**	**25,431**

(ご参考)連結キャッシュ・フロー計算書 (平成24年4月 1日より 平成25年3月31日まで)

(単位：百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	2,879
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,169
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,525
現金及び現金同等物に係る換算差額	27
現金及び現金同等物の増減額	212
現金及び現金同等物の期首残高	5,494
現金及び現金同等物の期末残高	5,706

▶財務情報の詳細は、
当社ホームページIRサイトをご覧下さい。

http://www.sinfo-t.jp シンフォニアテクノロジー 検索

貸借対照表 (平成25年3月31日現在)

(単位：百万円)

資産の部	
流動資産	**39,550**
現金及び預金	4,776
受取手形	2,329
売掛金	15,398
商品及び製品	723
仕掛品	8,869
原材料及び貯蔵品	4,771
前渡金	111
前払費用	43
繰延税金資産	842
短期貸付金	490
未収入金	1,116
その他	96
貸倒引当金	△20
固定資産	**37,703**
有形固定資産	26,914
建物	8,371
構築物	340
機械装置	2,114
車両運搬具	10
工具器具備品	673
土地	14,804
リース資産	392
建設仮勘定	208
無形固定資産	102
ソフトウェア	23
リース資産	23
その他	55
投資その他の資産	10,686
投資有価証券	4,487
関係会社株式	2,845
関係会社出資金	251
長期貸付金	1,202
破産更生債権等	9
前払年金費用	1,198
長期前払費用	15
その他	721
貸倒引当金	△44
資産合計	**77,253**

負債の部	
流動負債	**35,146**
支払手形	1,900
買掛金	8,672
短期借入金	17,854
リース債務	129
未払金	372
未払費用	3,159
未払法人税等	410
未払消費税等	434
前受金	873
預り金	989
設備関係支払手形	166
受注損失引当金	162
資産除去債務	9
その他	11
固定負債	**17,204**
長期借入金	13,647
リース債務	321
繰延税金負債	134
再評価に係る繰延税金負債	1,942
環境対策引当金	317
資産除去債務	351
その他	490
負債合計	**52,350**
純資産の部	
株主資本	**20,489**
資本金	10,156
資本剰余金	452
資本準備金	452
利益剰余金	9,935
利益準備金	509
その他利益剰余金	9,426
繰越利益剰余金	9,426
自己株式	△55
評価・換算差額等	**4,413**
その他有価証券評価差額金	781
繰延ヘッジ損益	△7
土地再評価差額金	3,639
純資産合計	**24,903**
負債及び純資産合計	**77,253**

損益計算書（平成24年4月 1日より 平成25年3月31日まで）

（単位：百万円）

売上高		53,173
売上原価		43,324
売上総利益		9,848
販売費及び一般管理費		8,673
営業利益		1,175
営業外収益		
受取利息及び配当金	179	
その他	154	334
営業外費用		
支払利息	409	
その他	169	578
経常利益		931
特別損失		
関係会社株式評価損	92	92
税引前当期純利益		839
法人税、住民税及び事業税	538	
法人税等調整額	△344	194
当期純利益		644

株主資本等変動計算書（平成24年4月 1日より 平成25年3月31日まで）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金		
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計
				繰越利益剰余金	
当期首残高	10,156	452	464	9,272	9,737
当期中の変動額					
剰余金の配当	—	—	44	△490	△446
当期純利益	—	—	—	644	644
自己株式の取得	—	—	—	—	—
自己株式の処分	—	—	—	△0	△0
株主資本以外の項目の当期中の変動額（純額）	—	—	—	—	—
当期中の変動額合計	—	—	44	153	198
当期末残高	10,156	452	509	9,426	9,935

	株主資本		評価・換算差額等				純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△54	20,292	600	△16	3,639	4,223	24,516
当期中の変動額							
剰余金の配当	—	△446	—	—	—	—	△446
当期純利益	—	644	—	—	—	—	644
自己株式の取得	△1	△1	—	—	—	—	△1
自己株式の処分	0	0	—	—	—	—	0
株主資本以外の項目の当期中の変動額（純額）	—	—	180	9	—	189	189
当期中の変動額合計	△1	196	180	9	—	189	386
当期末残高	△55	20,489	781	△7	3,639	4,413	24,903

連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書　謄本

独立監査人の監査報告書

平成25年５月９日

シンフォニアテクノロジー株式会社
　取締役会　御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員　公認会計士　原　田　大　輔　㊞

指定有限責任社員
業務執行社員　公認会計士　小　幡　琢　哉　㊞

当監査法人は、会社法第444条第４項の規定に基づき、シンフォニアテクノロジー株式会社の平成24年４月１日から平成25年３月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

連結計算書類に対する経営者の責任
　経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任
　当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。
　監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。
　当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見
　当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、シンフォニアテクノロジー株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係
　会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

会計監査人の監査報告書　謄本

独立監査人の監査報告書

平成25年５月９日

シンフォニアテクノロジー株式会社
　取締役会　御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員　公認会計士　原　田　大　輔　㊞

指定有限責任社員
業務執行社員　公認会計士　小　幡　琢　哉　㊞

当監査法人は、会社法第436条第２項第１号の規定に基づき、シンフォニアテクノロジー株式会社の平成24年４月１日から平成25年３月31日までの第89期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任
　経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任
　当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。
　監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。
　当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見
　当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係
　会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

監査役会の監査報告書　謄本

監　査　報　告　書

当監査役会は、平成24年４月１日から平成25年３月31日までの第89期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

１．監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査の方針、監査計画等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第１項及び第３項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。なお、財務報告に係る内部統制については、取締役等及び有限責任 あずさ監査法人から当該内部統制の評価及び監査の状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第３号イの基本方針及び同号ロの各取組みについては、取締役会その他における審議の状況等を踏まえ、その内容について検討を加えました。子会社については、子会社の取締役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

２．監査の結果

⑴　事業報告等の監査結果

一　事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。

二　取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

三　内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。なお、財務報告に係る内部統制については、本監査報告書の作成時点において開示すべき重要な不備はない旨の報告を取締役等及び有限責任 あずさ監査法人から受けております。

四　事業報告に記載されている会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針については、指摘すべき事項は認められません。事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第３号ロの各取組みは、当該基本方針に沿ったものであり、当社の株主共同の利益を損なうものではなく、かつ、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないと認めます。

⑵　計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人、有限責任 あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

⑶　連結計算書類の監査結果

会計監査人、有限責任 あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成25年５月10日

シンフォニアテクノロジー株式会社　監査役会

監査役（常勤）百　家　俊　次　㊞
監査役（常勤）廣　田　邦　彦　㊞
監査役　　野　本　俊　輔　㊞
監査役　　小　林　義　行　㊞

（注）監査役（常勤）廣田邦彦、監査役 野本俊輔 及び 監査役 小林義行は、会社法第２条第16号及び第335条第３項に定める社外監査役であります。

海外事業の展開に向けた取組について

当社は、海外事業の展開を図るべく主に海外拠点の拡充に取り組んでまいりました。

インドネシア市場には、当社は1970年代から発電機やリフマグ®、振動搬送装置などの製品を納めてきましたが、今後も経済発展が期待されることから、ジャカルタに駐在員事務所を設立し、更なる事業展開を図るための情報収集などの事業サポートができる体制を整えました。

生産拠点につきましては、当社子会社のシンフォニアマイクロテック株式会社の中国における生産拠点である東莞工場を現地法人化いたしました。東莞工場は従来、当社グループからのマイクロクラッチの委託加工しか行っておりませんでしたが、現地法人化したことにより、独自に製造販売を行うことができるようになりました。今後は更なる事業拡大を図るべく、マイクロクラッチ以外の製品の製造を手がけることも現在検討しております。また、タイの生産拠点であるシンフォニアテクノロジー（タイ）株式会社では、2011年度に建設された第２工場に加えて隣接地の工場用地（16,500㎡）を取得し、今後更なる生産能力の増強に備えております。

販売拠点につきましては、昕芙旎雅商貿（上海）有限公司が2013年４月に広州駐在員事務所を開設いたしました。

今後は、これらの拠点を最大限に活用し、海外での販売・生産の拡大に努めてまいります。

海外拠点網一覧

半導体製造装置用450mmウェーハ搬送機構の開発

当社は、半導体の製造工程において今後の主流となると見込まれる直径450mmのウェーハ搬送機構の試作機を開発いたしました。

半導体は、ウェーハと呼ばれる円盤状の素材を加工することにより製造されており、現在は300mmウェーハが主流となっております。当社ではこの半導体製造装置の入出口部分に位置し、ウェーハ製造には不可欠なロードポートという搬送装置で世界トップシェアの実績があります。

450mmウェーハ対応の機器は、各半導体製造装置メーカーによる開発・評価が進んでおりますが、当社では数年前よりいち早く対応を進めております。今回、新たに試作・開発した搬送機構は、450mmウェーハへの大型化に加え、好評をいただいているN2パージ方式※への対応も行っており、次世代への準備を着々と整えております。

450mmウェーハ搬送機構
（ミニエンバイロメントシステム 450/300mm Compatible EFEM）

※N2パージ方式：窒素を機器内部に送り込むことで酸素を取り除く方式のことを言います。これによって、従来方式による不純物がないクリーンな環境に加え、ウェーハが酸化することを防ぐことで歩留まり率の向上に寄与できます。

『ECOing』に込めた思い

ECOing™
エコで行こう！ エコへ移行！

今や地球規模の命題である「ECO」に、“行動力”を意味する「ing」を付与した『ECOing』を当社の企業環境ステートメントといたしました。エコ社会の実現に向け、強い行動力をもってエコロジーに貢献する製品作りに取り組むことはもちろん、常に環境に配慮し、すべての生産工程（部品調達、製造、輸送、リサイクル）においてCO_2削減に貢献して、地球温暖化防止と地球にやさしい循環型社会の創出を目指してまいります。

お客様とECOing…　社会とくらしにECOing…
地球の未来にECOing…

株主メモ

事業年度	４月１日から翌年３月31日まで
定時株主総会	６月
基準日	定時株主総会　３月31日 期末配当金　３月31日 中間配当金　９月30日 （その他必要あるときは予め公告します。）
上場取引所	東京
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目４番１号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目４番１号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目８番４号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（電話照会先）	TEL　0120（782）031（フリーダイヤル） 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

単元未満株式の買増・買取、住所変更等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、
特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

シンフォニアテクノロジーは、
(旧)神鋼電機より社名を変更いたしました。

シンフォニア テクノロジー 株式会社
〒105-8564　東京都港区芝大門1-1-30 芝NBFタワー
TEL　03（5473）1800
http://www.sinfo-t.jp

UD FONT by MORISAWA
見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022915
VEGETABLE OIL INK